

2013年7月下旬及び8月9日豪雨により東北地方で発生した土砂災害

岩手大学 ○井良沢道也 弘前大学 檜垣大助 岩手県立大学 伊藤 英之
 国土技術総合政策研究所 蒲原潤一、丹羽論 (株)寒河江測量設計事務所 堀和彦
 山形県庁 鈴木立男 国土防災 (株) 山科真一 応用地質(株) 三嶋昭二

1.はじめに

東北地方では本年7月下旬及び8月9日に記録的な降雨により土砂災害が山形県、秋田県、岩手県などで発生した。24時間最大降水量が観測開始以来1位の記録を更新するなど、各地で中小河川の氾濫、低所への浸水、田畑の冠水、家屋の流失や床上・床下浸水などが川沿いの広い範囲で起きるとともに、山地斜面においても斜面崩壊や土石流が集中的に発生し、大きな災害となった。とりわけ、秋田県仙北市供養佛地区では、土石流で人家が埋没し死者6名という痛ましい災害となった。

2. 山形県での降雨と被害状況

山形県内では、平成25年7月17～18日にかけて、低気圧の通過に伴って太平洋高気圧から暖かく湿った空気が流れ込み断続的に激しい降雨となった。同県西村山郡西川町大井沢では、24時間雨量が249mmと1978年統計開始以降1位を記録した。さらに、7月22日の午後にも停滞していた梅雨前線に向かって暖気が流れ込み、再び県南部置賜地方の高畠から西村山郡西部にかけて100mm～158mmの豪雨となった。これらの豪雨によって、山形県災害対策本部(2013)のまとめによると、県内では9月6日までに行方不明者1名、住家被害461棟、がけ崩れ・土砂流出による被害が48箇所発生した。西川町では、道路沿いのがけ崩れや橋の流出で6つの集落が一時孤立した。さらに、山形盆地の広域水道供給では、月山・朝日連峰に発源し水源となっている寒河江川の濁度が著しく上昇し、浄水処理が不能となって47時間にわたり給水活動が実施された(山形県、2013)。

3. 秋田県での降雨と被害状況

秋田県では、2013年8月9日、日本海北部を低気圧がゆっくり東進し日本海から湿潤な空気が流れ込んだことで明け方から昼過ぎにかけて県北部を中心に猛烈な降雨となった。奥羽山脈に近い鹿角では日最大1時間雨量が108.5mm、日最大24時間雨量が293.0mm、後述する仙北市田沢湖供養佛の土石流災害地に近い鎧畑でそれぞれ88.0mm、246.0mmでいずれも観測史上最大を記録した。降雨は、鹿角で5～12時、鎧畑で5～14時に集中し継続時間の短かったことが特徴である(図-1)。この豪雨で、秋田県仙北市田沢湖田沢供養佛地区では、土石流で人家が埋没し死者6名、重・軽傷者2名という痛ましい災害となった(写真-1)。また、時間雨量100mm以上となった県北部(鹿角市・大館市)では、がけ崩れ災害が204箇所発生した。

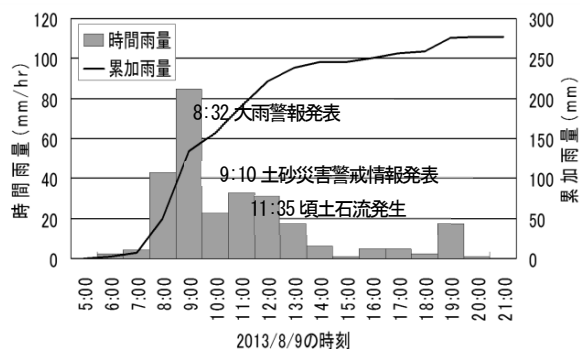


図-1 鎧畑観測所における雨量観測値



写真-1 仙北市供養佛地区の土石流災害箇所全景(国土交通省湯沢河川国道事務所提供)

4. 岩手県での降雨と被害状況

岩手県では、8月9日に秋田県中央部で発生した線状の集中豪雨が岩手県雫石町、盛岡市などに流れ込んだ。このため、日最大1時間降水量がアメダス雫石で78.0mm、紫波で71.0mm、大迫で63.5mmを観測した。また、この3地点では観測史上最大を記録した。日降水量は、雫石で264.0mm、紫波で211.0mmを観測し、盛岡地域、花巻・北上地域を中心に200mmを超える大雨となった(図-2)。図-3にアメダス雫石の雨量の推移と警報等の発表状況を示す。これらの豪雨によって、岩手県災害対策本部(2013)のまとめによると、県内では9月20日12時現在、死者が2名と重軽傷者が10名、住宅被害が1309棟という甚大な被害をもたらした。また、土砂災害はがけ崩れが盛岡市で7件、花巻市で1件、雫石町で1件の計9件、土石流が盛岡市で6件、紫波町で2件、雫石町で3件の計11件であった。東北部は翌日の8月10日に梅雨明けとなった。

